山形大学
Yamagata University

学長定例記者会見要項

日　　時：　令和４年６月２日（木）　１１：００～１１：４５
場　　所：　法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟３階）

発表事項

１．ウィズコロナ時代に向けた山形大学の取り組み～学生活動の観点から～
・山形大学オープンキャンパス 2022 の開催について
・DX でウィズコロナの学生交流の場を創出
～「山形大学交流プラットフォーム」を開設しました～

２．山形大学 EDGE-NEXT 実践編参加から学術指導契約、丸４年間の活動成果
～山形大学と（株）サニックスの共同プロジェクトが新会社で事業化へ～

３．庄内町「加藤元助植物標本」デジタル基盤の構築
～庄内町立図書館とティスコ運輸、山形大学の連携協力～

４．山形大学男女共同参画セミナー及びダイバーシティセミナーを開催します

お知らせ

１．トチノキをテーマにした公開講座を開講
～「SDG s にも繋がるトチノキ林を背景にした江戸期以降の行沢集落における民俗生態誌」～

２．新刊著書「新型コロナウイルスが人間社会へ残した禍根　渦中に見いだされたセレンディピティとコロナ世代の可塑性」発刊のお知らせ

（参　考）
○ 次回の学長定例記者会見（予定）
日　時：令和４年７月７日（木）１１：００～１１：４５
場　所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟３階）

学長定例記者会見（６月２日）発表

１．ウィズコロナ時代に向けた山形大学の取り組み～学生活動の観点から～
・山形大学オープンキャンパス 2022 の開催について
・DX でウィズコロナの学生交流の場を創出
～「山形大学交流プラットフォーム」を開設しました～

学長　玉手（たまて）　英利（ひでとし）
山形大学校友会事務局長　樋口（ひぐち）　浩朗（ひろお）

２．山形大学 EDGE-NEXT 実践編参加から学術指導契約、丸４年間の活動成果
～山形大学と（株）サニックスの共同プロジェクトが新会社で事業化へ～

PRE-EVモビリティ株式会社取締役会長　株式会社サニックス代表取締役社長
佐藤（さとう）　啓（ひらく）
PRE-EVモビリティ株式会社代表取締役社長　ドーシンキャピタル株式会社代表取締役
安田（やすだ）　猛（たけし）
山形大学アントレプレナーシップ開発センター長・教授　小野寺（おのでら）　忠司（ただし）

３．庄内町「加藤元助植物標本」デジタル基盤の構築
～庄内町立図書館とティスコ運輸、山形大学の連携協力～

庄内町立図書館　館長　佐藤（さとう）　晃子（あきこ）
庄内町立図書館　学芸員　後藤（ごとう）　恵（めぐみ）
学術研究院　講師（歴史民俗資料学）　阿部（あべ）　宇洋（たかひろ）

４．山形大学男女共同参画セミナー及びダイバーシティセミナーを開催します

副学長（社会共創担当）
ダイバーシティ推進室長　大森（おおもり）　桂（かつら）
学術研究院　准教授（ダイバーシティ推進室）　柿崎（かきざき）　悦子（えつこ）

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和4年（2022年）６月2日

ウィズコロナ時代に向けた山形大学の取り組み
～学生活動の観点から～

【本件のポイント】

●新型コロナウイルス感染症により、大学の様々な活動に影響が及んでいます。

●2020年度及び2021年度は対面での活動が大きく制限される一方で、オンラインの技術が飛躍的に向上し、学生をはじめ、教職員にもDXが浸透しました。

●今回、ウィズコロナ時代に向けた本学の取り組みについて、学生活動の観点からまとめるものです。

（新入生歓迎フェスティバルの様子（R4.4.16））

【概要】

新型コロナウイルス感染症により、大学の様々な活動に影響が及んでいます。2020 年度及び 2021 年度は対面での活動が大きく制限される一方で、オンラインの技術が飛躍的に向上し、学生をはじめ、教職員にも DX が浸透しました。

今回、ウィズコロナ時代に向けた本学の取り組みについて、学生活動の観点からまとめました。

【授業について】

2020 年度及び 2021 年度は、その時々の感染状況に応じて、原則オンライン、又は対面とオンラインとの併用等により授業が行われました。2022 年度は対面授業を中心に授業を実施しています（約 9 割）が、2020 年度及び 2021 年度に飛躍的に向上したオンラインでの教育についても、教育効果が認められる授業において活用しています。

【課外活動について】

2020 年度はオンラインによる活動が中心でしたが、2021 年度からはオンラインの活動に加え、接触を伴わない屋外の活動、又は体育館や広い集会室等で換気ができ十分な距離を保つことができる屋内の活動は可能としています。

【海外派遣学生及び新規入国外国人留学生について】

2020 年度は、海外派遣学生は 0 名、新規入国外国人留学生は若干名でした。2021 年度は、海外派遣学生として 4 名、新規入国外国人留学生は 15 名となりました。2022 年度は 5 月 31 日時点で、海外派遣学生は 3 名（2021 年度から継続）、新規入国外国人留学生は 56 名となっており、入国希望者数に対する新規入国者数の割合は約8割となっています。

【学生主体のイベントの開催（新入生歓迎フェスティバル）】

2020 年度は中止、2021 年度はオンラインでの開催となった新入生歓迎フェスティバルですが、2022 年 4 月 16 日、対面により実施しました。銀杏並木沿いや教室にたくさんのサークルが出店したほか、特設ステージにて各サークルの発表や八峰祭実行委員会企画のイベントを行いました。また、例年、秋に開催していた大学祭についても、3年ぶりの実施に向けて検討しています。

【オープンキャンパス 2022 の開催】

2020 年度及び 2021 年度についてはオンラインのみでの開催となったオープンキャンパスについて、2022 年度は対面とオンラインでの開催を予定しています。対面での本イベントは、3年ぶりとなります。詳細は別紙をご覧ください。

【山形大学交流プラットフォームの開設】
　山形大学校友会は、「ウィズコロナの学生支援事業」として、投稿型情報サイト「交流プラットフォームを構築し、6月１日に公開しました。詳細は別紙をご覧ください。

＊対面での活動については、感染症対策を十分に行ったうえで実施しております。今後の活動については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、開催方法、内容等を変更または中止する場合があります。

お問い合わせ
山形大学総務部総務課秘書広報室担当　星川
TEL　023-628-4008 メール yu-koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和4年（2022年）6月2日

山形大学オープンキャンパス2022の開催について

【本件のポイント】

- 令和4年度のオープンキャンパスは、対面やオンラインでの開催を予定しています。
- 対面でのイベントは、人数を制限して、感染症対策を十分に行った上で、学部説明、模擬講義、研究室紹介、キャンパスツアー等の実施を計画しています。（定員制、事前申込制）
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、開催方法、内容等を変更または中止する場合があります。

【概要】

山形大学では、令和４年度のオープンキャンパスは、対面やオンラインでの開催を予定しています。
対面でのイベントは、３年ぶりとなり、人数を制限して、感染症対策を十分に行った上で実施予定です。（定員制、事前申込制）
開催日は以下のとおり予定していますが、時間、内容等の詳細や申込については、決まり次第、本学ホームページでお知らせします。
なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、開催方法、内容等を変更または中止する場合があります。

【山形大学オープンキャンパス 2022】

●開催日

人文社会科学部	対面：7 月 23 日（土）	／	オンライン：9 月 3 日（土）午後
地域教育文化学部	対面：7 月 23 日（土）	／	オンライン：9 月 4 日（日）午前
理学部	対面：7 月 23 日（土）	／	オンライン：9 月 4 日（日）午後
医学部	オンライン：7 月 30 日（土）		
工学部	対面：8 月 6 日（土）		
農学部	対面：7 月 23 日（土）		

●詳細・申込

決まり次第、本学ホームページでお知らせします。
https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/entrance/event/opencampus2022/

また、6 月中旬頃、高等学校へ開催の案内の送付及び各報道機関へのプレスリリースを予定しております。

お問い合わせ
エンロールメント・マネジメント部入試課
TEL　023-628-4062　　メール　yu-enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学校友会 Yamagata University Alumni Association　山形大学 Yamagata University

令和4年（2022年）６月2日

DXでウィズコロナの学生交流の場を創出
～「山形大学交流プラットフォーム」を開設しました～

【本件のポイント】

●一昨年からのコロナ禍は、学生からキャンパスという交流の場と、学生時代にしかできない様々な交流の機会を奪ってきた。

●山形大学校友会（※）は、「ウィズコロナの学生支援事業」として投稿型情報サイト「交流プラットフォーム」を構築し、6月1日に公開。

●「山形大学将来ビジョン」の“つなぐ力”のDXツールとして、本学学生・教職員はもとより、卒業生、保護者、地域の皆さま等、本学に関わるすべての方にお使いいただきたい。

【概要】

一昨年からのコロナ禍は、学生からキャンパスという交流の場と、学生時代にしかできない様々な交流の機会を奪ってきました。

山形大学校友会は、平成18年の発足以来、会費収入を財源に様々な学生支援事業を行ってきましたが、令和2年度事業は、コロナ禍の影響で中止や規模縮小を余儀なくされました（新入生のサークル加入等、日常のキャンパスライフにも影響が出た）。この状況を受け、令和3年度からウィズコロナ、アフターコロナを見据えた学生支援事業として、**投稿型情報サイト「交流プラットフォーム」を構築**してきました。

構築に際しては、すべてのステークホルダーを対象としたアンケート調査（令和3年7月20日～8月27日、回答数162件）で、具体的な交流ニーズを探ったほか、校友会学生幹事からＺ世代に望まれる情報交流のヒアリングを行うなど、より多くの方に使っていただくことを念頭に検討を進めてきました。一方で、今年3月に公表した「山形大学将来ビジョン」では、「多様な人々が出逢い活躍する「コモンズ」として、地域から愛され、地域と共に発展する大学になります」と宣言しました。

本サイトは、小白川･飯田･米沢･鶴岡の4キャンパスのイラストマップを掲載し、公認サークル、研究室、関連施設の情報収集と、「いいね！」や投稿による交流ができるほか、四季折々の風景をドローンや360°カメラで撮影した動画・画像で楽しむことができます。利用については、通常のサイト同様に閲覧できるほか、3種類（「交流会員」、「正会員」、「卒業生会員」）のカテゴリーに登録いただくことにより、よりユーザーニーズに適った交流が可能となっています。

本サイトは**6月1日に公開**しました。「山形大学将来ビジョン」の**“つなぐ力”の DX ツール**として、**本学学生･教職員はもとより、卒業生、保護者、地域の皆さま等、本学に関わるすべての方のご利用をお待ちしております。**

詳細は、別紙「山形大学校友会交流プラットフォームについて」をご覧ください。

※山形大学校友会

校友会（会長:学長、平成18年12月設立）は、山形大学における全ての学部の在学生とその卒業生、役員、教職員、退職者等の会員（生涯会費10,000円）で構成され、山大応援団として山形大学や山形大学の学生等を支援する全学的な組織（会員数約30,000人（R4.4現在））。「山形大学コミュニティの醸成･強化」を目的とする。

お問い合わせ
山形大学校友会事務局
エンロールメント･マネジメント部　　樋口　浩朗
TEL　023-628-4867 メール yu-kouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

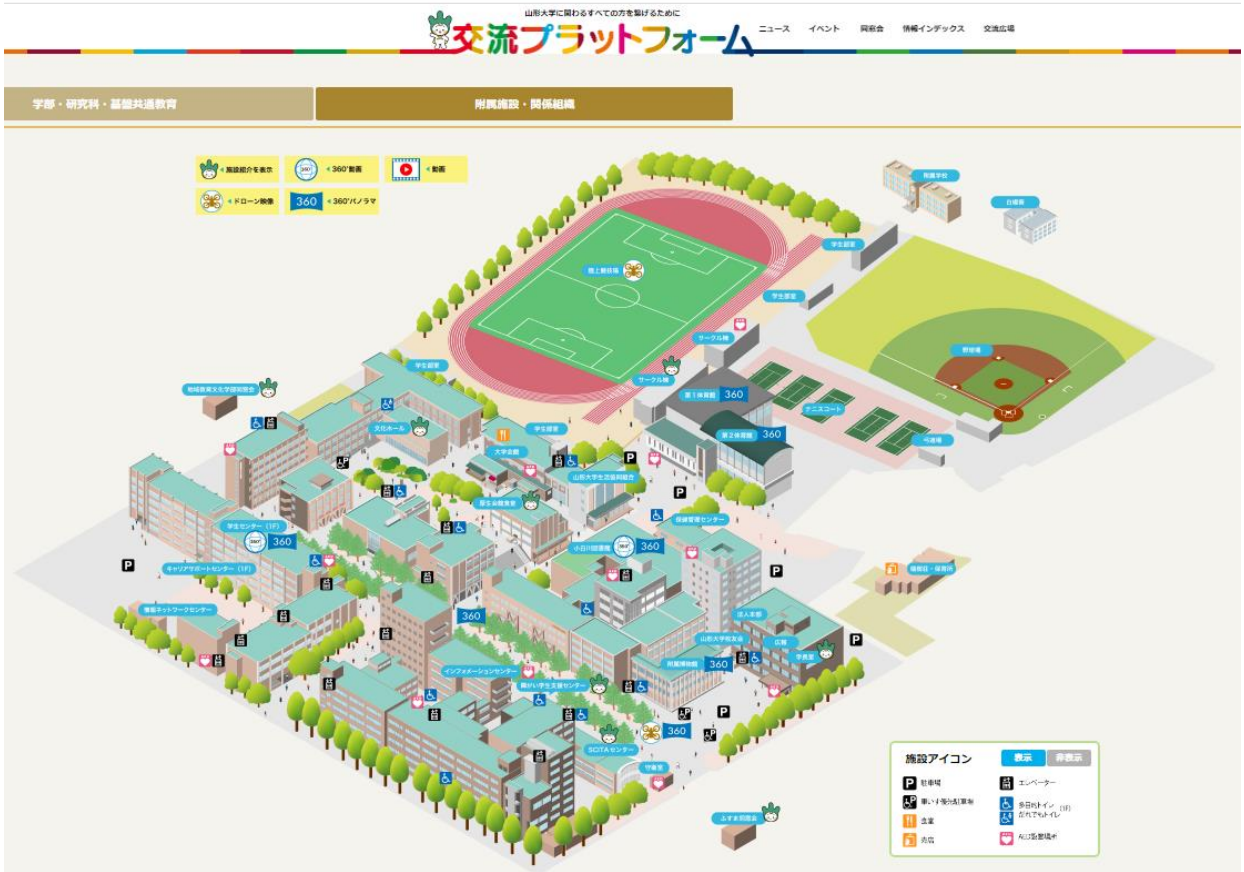
山形大学校友会交流プラットフォームについて

校友会キャラクター　ぎんなちゃん
（登録商標）

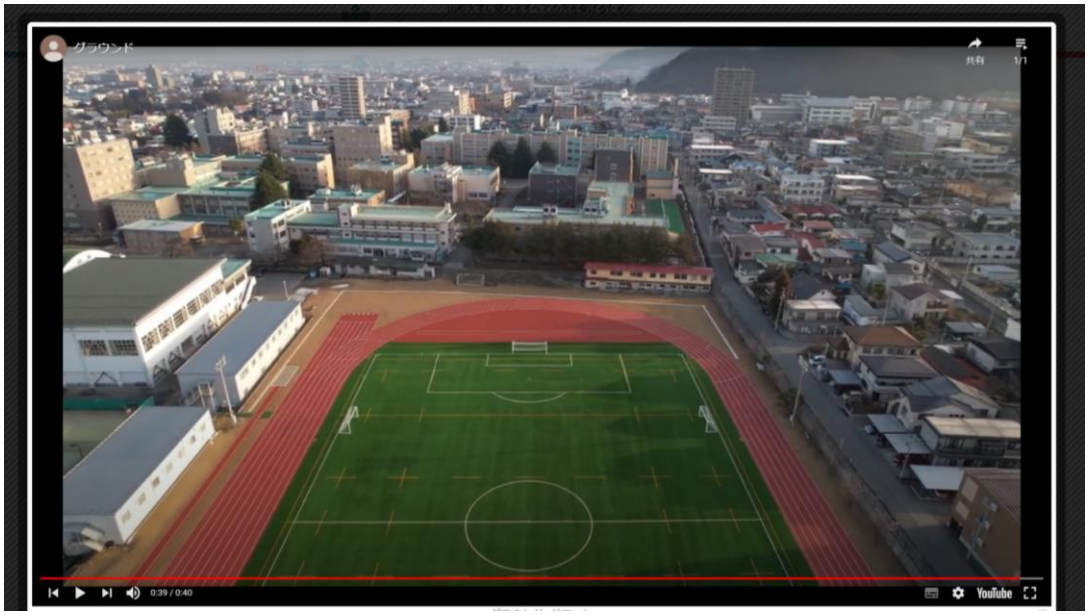
山形大学に関わるすべての方を繋げるための「交流プラットフォーム」です。ウィズコロナ対応、DX 志向。皆さま、是非お使いください♪

URL: https://www.yamagata-u.ac.jp/exchange/

【トップページ：キャンパスガイド】

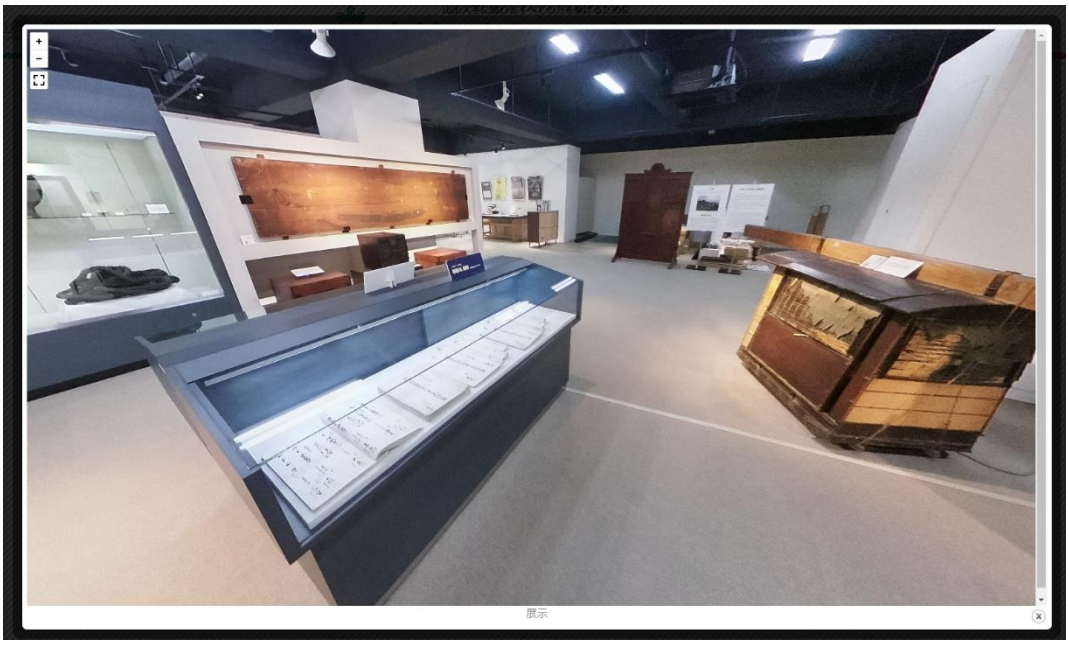


各キャンパスのイラストマップです。
各施設紹介のほか、360°動画、360°パノラマ、ドローン映像をご覧いただけます。
（マップは季節で変化します。現在は小白川キャンパスのみですが他キャンパスも随時公開します）



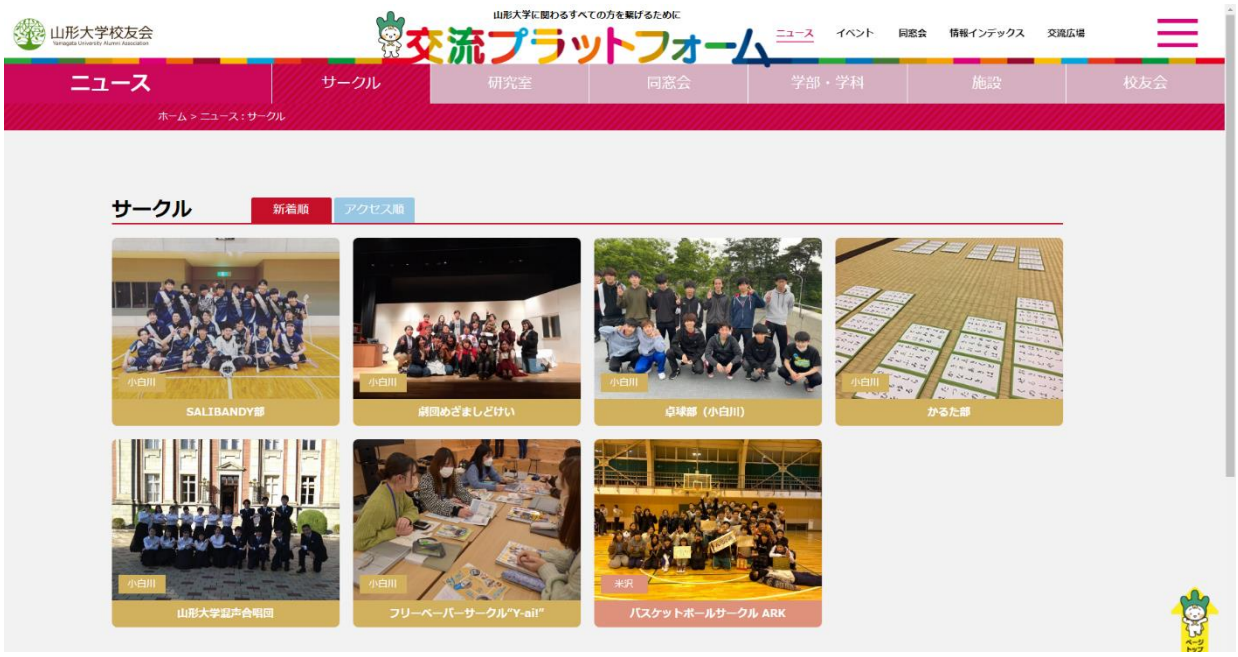
整備した小白川キャンパスグラウンドのドローン映像

学生センターの 360°動画



附属博物館の 360°画像

【ニュース】



「サークル」、「研究室」、「同窓会」、「学部･学科」、「施設」、「校友会」のカテゴリーで、新着順、アクセス順にニュースをご覧いただけます。

SALIBANDY 部の投稿。

了承を得た全公認サークルの情報をご覧いただけます。

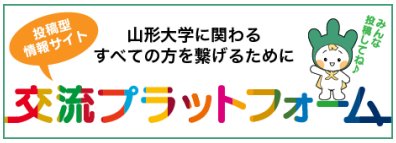
ご覧いただいた方は「いいね！」できます。会員登録された方は投稿も可能です。

ふすま同窓会のニュース

農学部　堀内健一研究室（校友会副会長）のニュース

【イベント】

「サークル」、「研究室」、「同窓会」、「学部･学科」、「施設」、「校友会」のカテゴリーで、各種イベントの告知と報告をご覧いただけます。

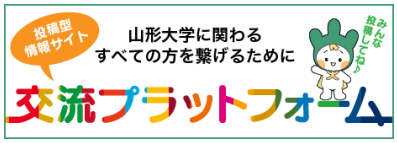


【同窓会】

山形大学に関わるすべての同窓会（海外同窓会を含む）との交流が可能です。

一般社団法人米沢工業会のページ

新しくなった白楊寮（寮生間（OBOG 含）の交流が可能）



【情報インデックス】

「サークル」、「研究室」、「就職･公務員試験」、「学部･研究科・センター等」、「附属施設・関係組織」、「アーカイブ」のカテゴリーでの情報閲覧と交流が可能です。

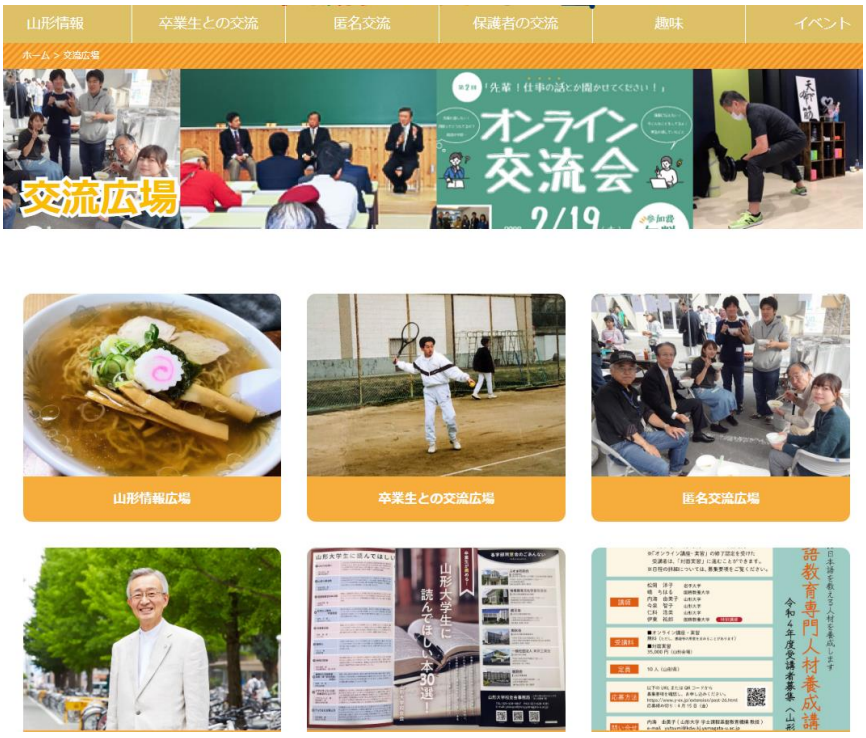
公認サークルの SNS 情報が一目瞭然

校友会学生幹事が独自に情報を発信し、交流します。

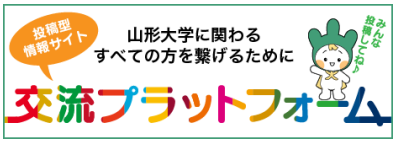
学食情報は重要な交流情報です。

各キャンパスの貴重な画像をアーカイブして昔話に花を咲かせます。

【交流広場】



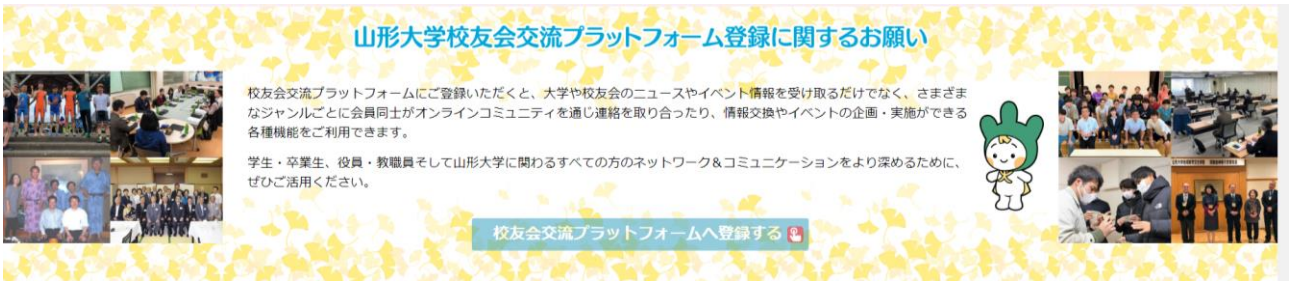
「山形情報」、「卒業生との交流」、「匿名交流」、「保護者の交流」、「趣味」、「イベント」、「就職活動」、「ボランティア」のカテゴリーで交流できます。



重要な山形情報であるラーメンで交流できます。

大事なステークホルダーである保護者の皆さまの交流ができます。

【交流プラットフォームへの登録について】



交流プラットフォームにご登録いただくと、大学や校友会のニュースやイベント情報を受け取るだけでなく、さまざまなジャンルごとに会員同士がオンラインコミュニティを通じ連絡を取り合ったり、情報交換やイベントの企画・実施ができる各種機能を利用できます。

投稿型情報サイト
山形大学に関わる
すべての方を繋げるために
交流プラットフォーム

新規会員登録

1 会員情報入力	2 会員情報確認	3 メールアドレス認証	4 登録完了

※登録の前に「@jm.kj.yamagata-u.ac.jp」からのメールを受信できるよう設定してください。

ご登録いただく会員の種類をご選択ください。

● **交流会員**

「投稿」へのコメントが行えます。

○ **正会員**

卒業生以外の方を対象に、必要情報を追加してご入力いただくと"母校の今"や様々な情報をお届けするメールマガジンを配信したり「山形大学オリジナルボールペン」を贈呈いたします。また広場への「投稿」が行えます。

○ **卒業生会員**

卒業生の方を対象に、必要情報を追加してご入力いただくと"母校の今"や様々な情報をお届けするメールマガジンを配信したり「山形大学オリジナルボールペン」を贈呈いたします。また広場への「投稿」が行えます。

登録させていただいた個人情報は、校友会及び下記同窓会の活動のみに使用し、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律を遵守して厳正に管理いたします。

- ふすま同窓会
- 地域教育文化学部同窓会
- 蔵王会
- 樹氷会
- 米沢工業会
- 鶴窓会

校友会キャラクター　ぎんなちゃん

（登録商標）

皆さまのご登録を

お待ちしております♪

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和4年（2022年）6月 2日

山形大学EDGE-NEXT実践編参加から学術指導契約、丸4年間の活動成果
～ 山形大学と㈱サニックスの共同プロジェクトが新会社で事業化へ～

【本件のポイント】

●山形大学国際事業化研究センターのEDGE-NEXT実践編（山形県ものづくりベンチャー創出支援事業）、学術指導契約、計４年間の共同プロジェクトの結果、(株)サニックスが新会社設立、事業化へ向けて本格的に動き出した。

●CO2排出削減で課題が大きい大型商用車のEV化問題で、計画発電蓄電制御装置により運送効率を維持しながら課題解決する画期的な提案、実現後の波及効果が大きい。環境省事業で実証確認を行い、様々な連携が生まれた。

●山形大学アントレプレナーシップ開発センターでは、環境問題の解決に貢献する本技術での事業化実現に向けて、関係先紹介を含めた全面的な支援を継続実施、山形から全国に発信する産学連携での事業成果を目指していく。

「ジャパントラックショー2022」(2022年5月12日～14日、於パシフィコ横浜)に新会社で初出展。PRE-EVトラックの前で新会社の経営陣と小野寺山形大学アントレプレナーシップ開発センター長。

【概要】

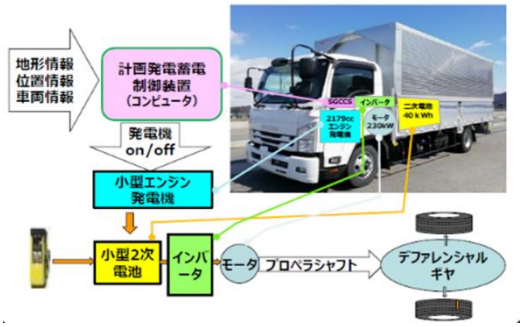
山形大学は、2018 年度から 2 年間、山形県ものづくりベンチャー創出支援事業の委託を受けた事業化支援を実施しました。２年目の 2019 年度、参加企業の㈱サニックスは、環境省の 2019 年度 CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業に採択、2 億円を超える資金調達を得て、技術開発と事業構築活動に着手しました。テーマは、走行に必要なエネルギーを事前計算して計画的に発電と蓄電ができる「計画発電蓄電制御装置」を搭載した EV 商用車向け装置、PRE-EV(Plug-in Range Extender-EV)の開発です。同装置は移動電力を精緻に予測し、回生エネルギーの吸収等省エネルギー効果を創出、電池搭載量を大幅に減らして発電機を小型化することで、大型商用車の EV 化で最大の課題であった航続距離の延伸と CO2 排出量の削減を実現します。貨物事業者の経済合理性も確保できることから、これまで進まなかった大型商用車分野での展開が大きく期待されています。

2020 年度からはサニックス社と学術指導契約を 2 年間継続し、事業化に向けた指導と情報や関係先紹介の提供をしながら進めてきました。コア技術の構築では、公道走行実証試験を昨年 9 月から継続して実施した結果、目標値以上の結果が出て、技術の有効性が確認できました。継続してデータの蓄積を続けています。開発サイドの技術テーマも、基本技術の構築から製品化に向けた各課題の解決へシフトしてきています。

そうした中、サニックス社は、環境省事業で開発から実証実験まで行い有効性が確認できた本技術での事業化に向けて、組織体制の強化を図り、経営計画への取り込みを行い、事業化を目的に、2022 年 5 月 2 日、新会社を設立しました。新会社の狙いと今後のマイルストーンなどについても、今回発表させて頂くことになります。

【コア技術・計画発電蓄電制御装置とは】

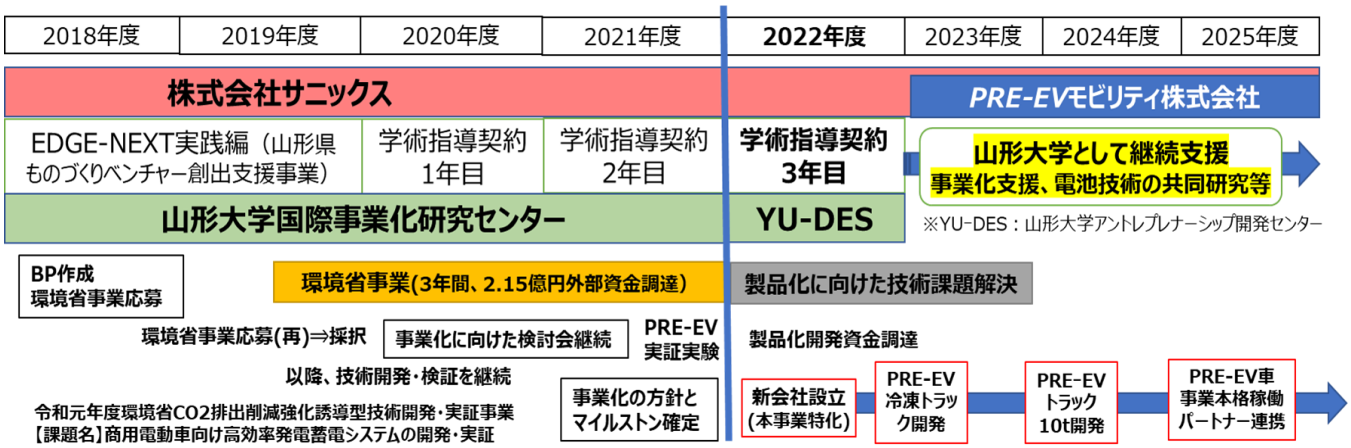
①逐次 3 次元分析を行って走行単位ごとに GIS データから標高差と距離を算出する。②車両データを分析、取得ポイントから目的地までを走行単位毎に車重・ 電費等を推計することで、水平・垂直の総移動エネルギーを計算する。③走行単位を移動する毎にこの計算逐次繰り替え、必要最低限の発電行う様に発電機を制御する。以上を行う一連のシステムです。



配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【山形大学と㈱サニックスの取り組みの履歴】

山形大学は、㈱サニックスに対して、2018年度から、国際事業化研究センターによる伴奏的な指導、事業化に向けた連携を行い、2019年度、サニックス社は IOT を活用した PRE-EV トラック開発事業が、環境省事業に採択されました。2020年度からは学術指導契約に切り替えて連携を継続してきました。今年度からは、国際事業化研究センターからアントレプレナーシップ開発センターが引き継いで、連携事業として行っています。バッテリー技術に関するところは、山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター次世代電池開発室も関与して、技術面での産学連携支援も行っています。



【新会社：PRE-EV モビリティ株式会社】

山形 PRE-EV プロジェクトでの成果をもとに、本技術での事業化を行う新会社が設立されました。

会社名	PRE-EV モビリティ株式会社　(PRE-EV MOBILITY Inc.)
本社所在地	山形県山形市十文字812 番地　(㈱サニックス本社内)
営業所所在地	大阪府八尾市、神奈川県横浜市
資本金	10,000,000 円
役員	取締役会長 佐藤 啓 代表取締役社長 安田 猛
主な取扱製品、サービス	計画発電蓄電制御装置(SGCCS)をもとにした各種事業
設立時期	2022年5月2日

【ジャパントラックショー2022 へ出展】

トラック業界等への PRE-EV プロジェクト成果の公知では、5月12日～14日にパシフィコ横浜(横浜市)で開催された「ジャパントラックショー2022」にて、今回設立の新会社としてブースを構え、開発・実証試験を行った PRE-EV トラックの実機を並べて案内しました。小野寺センター長が会場入りして、発表に立ち会いました。関係業界等から大きな反響が得られて、この先の事業展開に期待されています。

以上

お問い合わせ

山形大学アントレプレナーシップ開発センター　安房(あわ)

TEL　023-628-4075　　メール awa@yz.yamagata-u.ac.jp

山形大学
Yamagata University

山形大学EDGE-NEXT実践編参加から学術指導契約、丸4年間の活動成果

～ 山形大学と㈱サニックスの共同プロジェクトが新会社で事業化へ ～

＜説明資料＞

2022.6.2.

山形大学アントレプレナーシップ開発センター

Rev.01

山形大学EDGE-NEXT人材育成プログラムとの関係

山形大学 Yamagata University
SANICS

◆山形大学EDGE-NEXTプロジェクトで生まれたビジネステーマ、環境省事業での技術構築と学術指導契約での事業化検討の結果、新会社の誕生へ！

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	**2022年度**	2023年度	2024年度	2025年度

株式会社サニックス | ***PRE-EV*モビリティ株式会社**

EDGE-NEXT実践編（山形県ものづくりベンチャー創出支援事業） | 学術指導契約1年目 | 学術指導契約2年目 | **学術指導契約3年目**

山形大学として継続支援
事業化支援、電池技術の共同研究等

山形大学国際事業化研究センター | **YU-DES**

※YU-DES：山形大学アントレプレナーシップ開発センター

BP作成
環境省事業応募

環境省事業(3年間、2.15億円外部資金調達)

製品化に向けた技術課題解決

環境省事業応募(再)⇒採択

事業化に向けた検討会継続

PRE-EV実証実験

製品化開発資金調達

以降、技術開発・検証を継続

令和元年度環境省CO2排出削減強化誘導型技術開発・実証事業
【課題名】商用電動車向け高効率発電蓄電システムの開発・実証

事業化の方針とマイルストン確定

新会社設立(本事業特化) → **PRE-EV冷凍トラック開発** → **PRE-EVトラック10t開発** → **PRE-EV車事業本格稼働パートナー連携** →

2022年度～

山形大学アントレプレナーシップ開発センター ―**連携**― ㈱サニックス

⇩ **5/2に新会社設立**

山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター　次世代電池開発室

PRE-EVモビリティ㈱

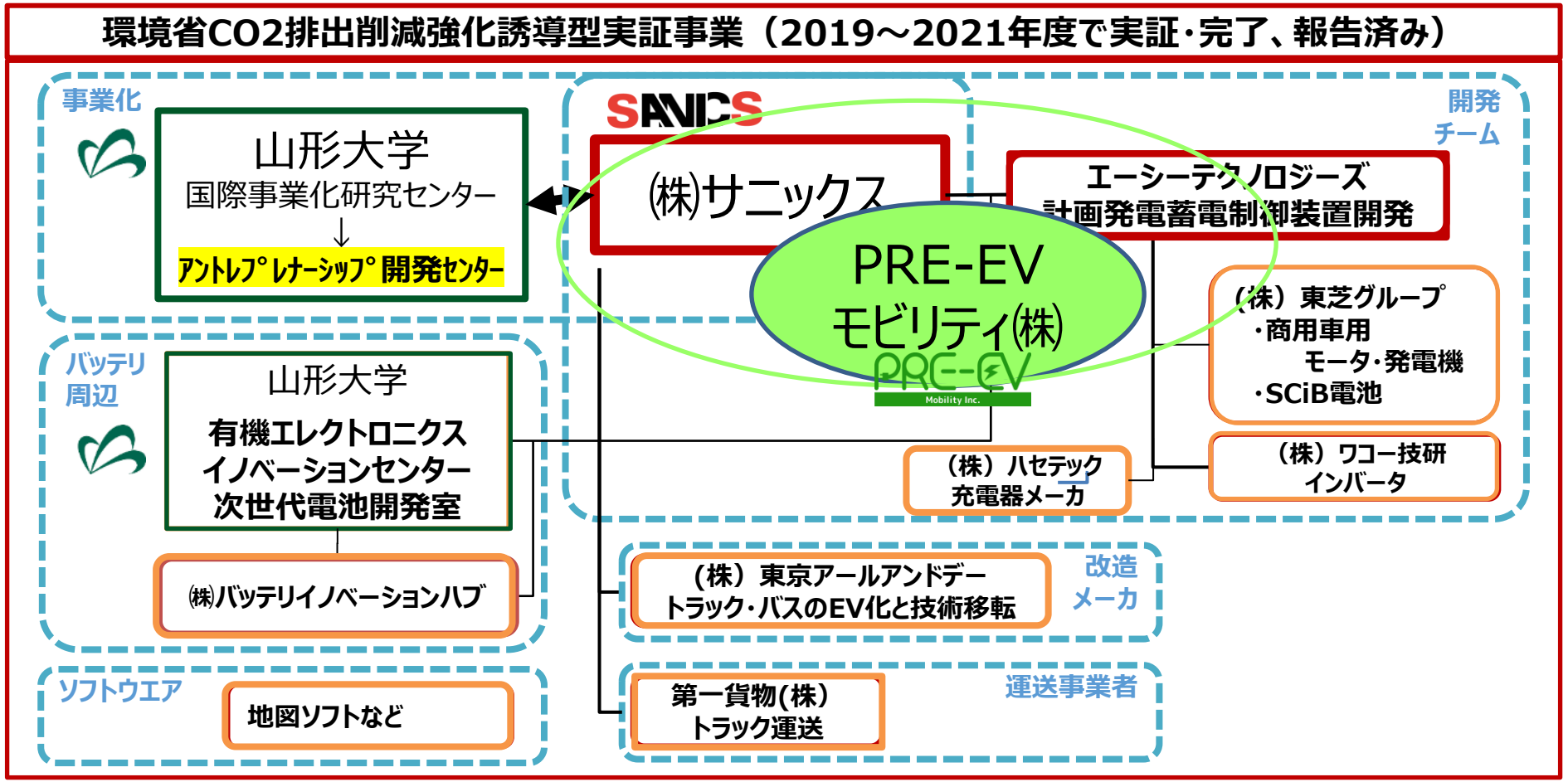
PRE-EV Mobility Inc.

これまで、バッテリの評価などフィジビリティ検証などで関係中。
将来的には研究成果の新世代バッテリの実装なども検討していく。

推進チーム：山形PRE-EVプロジェクトチーム

山形大学 Yamagata University
SANICS

◆事業化チームと開発チームでプロジェクト推進（進捗と次のアクションの確認）
◆事業化チームは、山形大学アントレプレナーシップ開発センターが継続参加
◆開発チームは、新会社(PRE-EVモビリティ)が製品化に関わる開発を実施



テーマ：事業者のEVトラックの課題を解決する！

山形大学 Yamagata University SANICS

①「稼げない」

- 航続距離
- 充電時間
- 生涯走行距離が乗用車の数倍以上あり、電池・モータなどの寿命の問題

事業者からみたEV商用車の導入の課題

②大型車用充電器が不足

③大雪・事故等で閉じ込められた場合の冷暖房による電欠の不安

このため2トン以上の大型商用車のCO2削減は世界的に最適解が無い状況

- カリフォルニアZEV規制：0.92トン以上は免除
- 欧州規制: 2トン以上は免除
- 日本：8トン未満の商用車は2030年までに新車販売の20～30%、2040年までに、電動車と合成燃料等の脱炭素燃料の利用に適した車両で100%をめざす

従来技術での解決策

乗用車では発電機を搭載したプラグインレンジエクステンダー(PHEV)という方法で解決

しかし、発電用エンジンはガソリン車同等の排気量になり、トラックでは貨物積載量減少積載効率激減で、使えない

計画発電蓄電制御技術（SGCCS）で解決

プラグインEV走行に必要最小限の電池を搭載し、小型発電機による発電走行可能な技術を実装

解決に使用する技術：計画発電蓄電制御装置

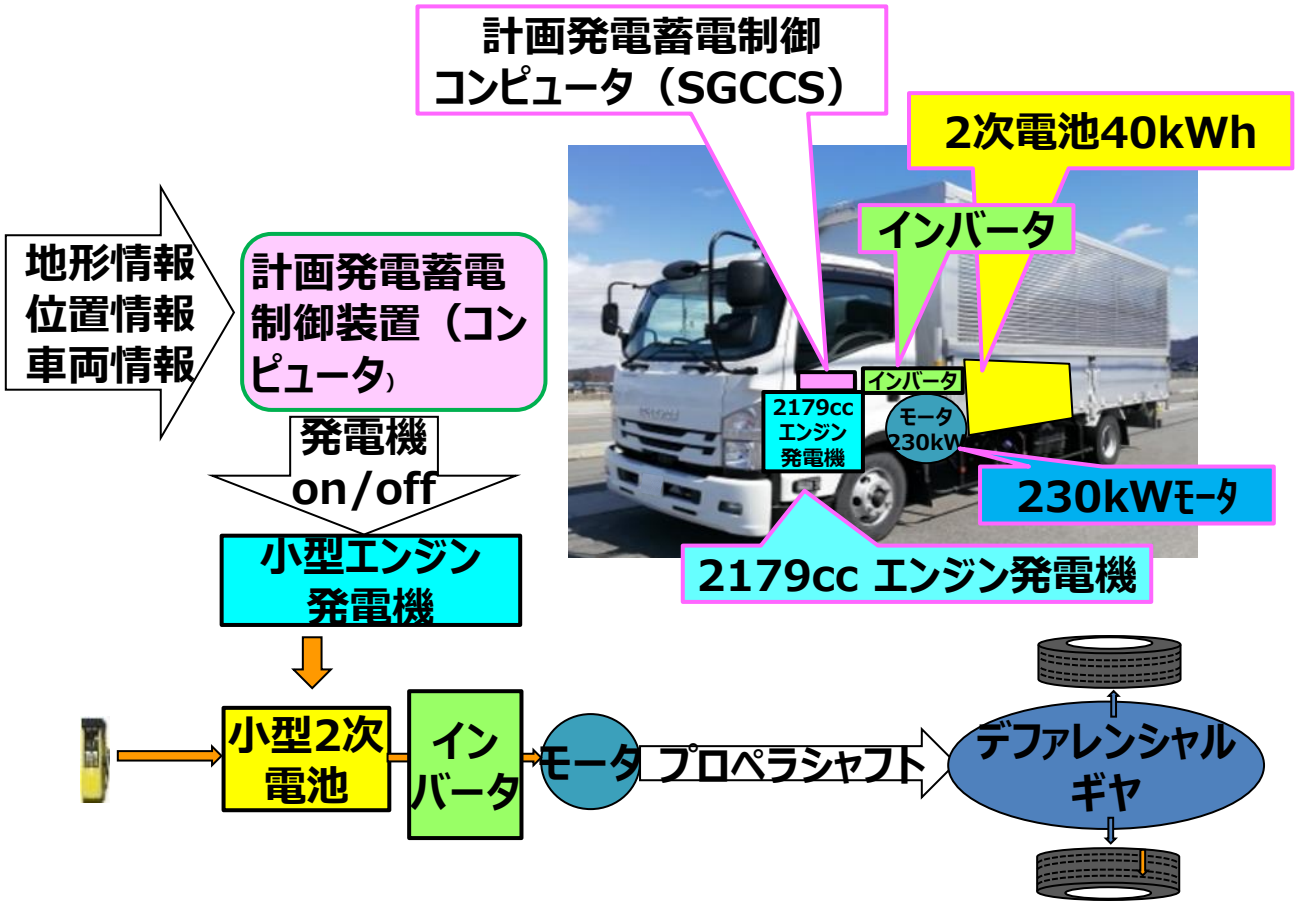
山形大学 Yamagata University SANICS

差別化技術

計画発電蓄電制御技術(SGCCS)とは

- 現在地から目的地までの移動に必要なエネルギー(電力)を車載コンピュータで計算
- 現在の電池残量から不足する電力を算出、適切な区間で一定電力で発電して電池に蓄電、目的地到着で所望の電池残量になるよう制御する技術

今回開発した7.85トントラックのシステム構成 EVトラックに小型発電機と制御装置を搭載



新会社：「PRE-EVモビリティ株式会社」

◆本事業を推進する新会社が設立。サニックス社とドーシンキャピタル社との2社パートナーシップを軸に設立。

◆山形大学アントレプレナーシップ開発センターは、事業計画の策定、資金調達、広報、知財、チームビルドなどで事業化支援を継続する。

◆バッテリ技術では、山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター次世代電池開発室が当初より関与しており、技術面での産学連携支援を実施していく。

会社名	PRE-EVモビリティ株式会社　（PRE-EV MOBILITY Inc.）
本社所在地	山形県山形市十文字812番地（㈱サニックス内）
営業所所在地	大阪府八尾市、神奈川県横浜市
資本金	10,000,000円
役員	取締役会長　佐藤 啓（㈱サニックス代表取締役） 代表取締役社長　安田 猛（ドーシンキャピタル㈱代表取締役）
主な取扱製品、サービス	計画発電蓄電制御装置（SGCCS）を基にした各種事業
設立	2022年5月2日

ジャパントラックショー2022に出展（2022年5月）

山形大学 Yamagata University
PRE-EV Mobility Inc.

今後の事業ビジョンとマイルストン

山形大学 Yamagata University
PRE-EV Mobility Inc.

PRE-EVで2050年カーボンニュートラル実現に貢献

FY2024

SGCCSの普及拡大
PRE-EVトラック生産体制の構築

- ■SGCCSを搭載した電動車両の社会実装促進
- ■コンソーシアムの広がりと深度ある連携

FY2023

PRE-EVトラック（10t）を開発

- ■PRE-EV車両の車格バリエーション（中～大型）を展開
- ■データ蓄積によるSGCCSの計算精度アップ

FY2022

PRE-EV"冷凍"トラック（4t）を開発｜豊洲プロジェクト

- ■走行性能と冷凍機能を両立
- ■積載量をアップし、経済性を確保
- ■SGCCS機能向上
  データをクラウド管理・解析

FY2021

環境省PJで効果を実証

- ■SGCCSを搭載したPRE-EVトラック完成
- ■公道走行で効果を実証
- ■走行実績｜1充電走行　80㎞
  発電走行距離　500km
  CO2排出量　▲35%（同格のDEL比、100km走行時）

山形PRE-EVトラックプロジェクト
ご支援を宜しくお願いいたします

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学 Yamagata University

令和4年（2022年）6月２日

庄内町『加藤元助植物標本』デジタル基盤の構築

～庄内町立図書館とティスコ運輸、山形大学の連携協力～

【本件のポイント】

- 庄内町立図書館所蔵『加藤元助植物標本』の1,129点のデジタル化。
- 本格的な機材を使用した植物標本のデジタル化を実施。
- 植物標本は劣化や扱い時の破損の可能性が高く、一般公開が難しい現状であったが、デジタル撮影し、公開基盤を整備することによって、活用可能な資料として期待される。

【概要】

今回、庄内町立図書館所蔵（館長：佐藤晃子）『加藤元助植物標本』のデジタル化に関する相談を昨年 11 月に実施。研究がスタートした。植物標本は、経年劣化や保存環境、使用頻度によって長期保存可能かどうかが左右される資料である。当資料は、１点ずつ植物が台紙に貼られている状況で、展示の度に額装していた。

そのため、展示時に標本の際にどうしても負荷がかかる状況であった。また点数も 1,000 点を超えるため、その全体像を安易に共有、確認できる状況ではなかった。そこで、山形大学の阿部宇洋講師（学士課程基盤教育機構担当）と株式会社ティスコ運輸（本社：山形市、社長：菅原 茂秋）と協力し、『加藤元助植物標本』1,129 点のデジタル化を実施した。

ティスコ運輸はデジタルアーカイブ部門があり、一般文書のデジタル化機材の他に、学術的な資料のデジタル化が可能なスキャナを所有し非接触非破壊の撮影が可能な環境が整っている。

１月から３月にかけデジタル化を実施し、総枚数 1,129 点の撮影を実施した。その際、搬出入を庄内町立図書館が担当、撮影をティスコ運輸が担当、監修、撮影指導を山形大学が担当した。

４月初めに撮影行程が完了し、その後、データの整備を実施。完成したデータは、５月８日に庄内町立図書館へ寄贈された。今後、デジタル化された植物標本は、庄内町立図書館で資料管理のデータとして利用するほか、公開活用を検討している。植物標本の作成時代は明治 40 年（1907）から昭和 33 年（1958）年と 51 年であり、山形県内の植物が主で、なかには現在絶滅危惧種に認定されている植物標本もある。

【背景】

地域資料は、保存はされているが公開されていない資料や、公開したいが公開に耐えられない状況のものもある。今回の資料は植物標本 1,129 点であるが、昭和 30 年代に図書館の依頼により作成されたものとされる。中には採集から 100 年前の植物標本であるため種子や葉の剥落などもあり、出来るだけ動かさない形での資料把握が出来る様に早急の対策が必要であった。

また、この植物標本は高精細での撮影が必要であり、資料デジタル化の技術を持つティスコ運輸の特殊な機材や技術を提供いただいた。

【研究手法・研究成果】

山形県内の植物標本のデジタル化は、山形県立博物館ですでに実施されており、デジタルアーカイブズとして公開されている。また、植物標本は、全国各地のさまざまな学術機関でデータベース化されており、比較しやすい環境が整っている。

加藤元助の植物標本はその多くを山形県立博物館が所蔵しており、もとは、山形大学農学部にあった。2002 年に山形大学から山形県立博物館に移管されている。今回、加藤元助植物標本がデジタル化されたことにより、Web 上での植物標本の結合や比較などの基礎が出来たことになる。

（科研費番号：基盤研究費（A）19H00550　アーカイブズによる「地域力」再生と持続的社会の基盤創成研究）

【今後の展望】

山形県内にはデジタル化すべき資料が存在するが、技術や機材の問題で県外への委託や研究者が独自に実施することが多い状況であった。その際に課題となるのが資料の搬送や撮影の精度になる。加藤元助植物標本は庄内町出身の郷土の資料で、庄内町では重要な資料の一つである。いままで図書館でしっかりと管理されていたこともあり、比較的安定した資料であったが、経年劣化の影響は避けることが難しかった。その点、記録化をしたことにより、展示以外での資料調査や展示品の選定時など負荷がかかる状況においてリスクを最小限に抑えることが

可能になった。さらに、撮影場所も県内と、運搬時リスクも少なく、また撮影精度が高いためそのままデータベース等でも活用出来る状況である。

今回の研究は県内での専門機材を使用したデジタル化の拡大と実践活動であり、博学地（博物館、大学、地域）連携も期待出来る。

※用語解説

1．加藤元助（かとうもとすけ）（1885～1976）…庄内町廻館出身の植物学者。

2．写真は No.507　ムラサキ（Lithospermum erythrorhizon）　絶滅危惧種レッドデータブック IB にランク

お問い合わせ
学術研究院　講師　阿部宇洋（歴史民俗資料学）
TEL　023-628-4868　　メール taka.abe@cc.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和4年（2022年）6月２日

山形大学男女共同参画セミナー及びダイバーシティセミナーを開催します

【ダイバーシティ推進室について】

令和４年４月１日、戦略本部各室の一つとして、大森副学長を室長とする「ダイバーシティ推進室」が設置されました。

ダイバーシティ推進室の活動根拠（行動計画等）は、山形大学男女共同参画基本計画（第２次）（令和元年 12月 18日決定）に基づくものであり、当該基本計画の目的は、「男女共同参画及びダイバーシティを一層推進し、本学の学生及び教職員が性別、性的指向・性自認等にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮でき、かつ、学業・仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現することを目指し、具体的な施策の推進を図っていくことです。

【本件のポイント】

- 毎年6月の「男女共同参画週間」に合わせて、男女共同参画セミナー及びダイバーシティセミナーを開催。
- 『地方だからこそ、ダイバーシティ～男女共同参画週間に寄せて～』をテーマとした有識者による講演。
- 山形大学主催、大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」共催により開催。

【概要】

山形大学は、毎年６月に開催される「男女共同参画週間」（内閣府他）に賛同し、本学の取組を報告するとともに、東北地区のネットワーク拡大を図る取組として、山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナーを開催します。

なお、６月 23 日（木）に開催される講演会については、令和４年度全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック南東北会議の研修会を兼ねておりますが、対象は、教職員、学生、行政・企業関係者のほか、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。多数のご参加をお待ちしています。

【講演会開催事項】

日　時：６月23日（木）　14:30~16:30
会　場：Zoomウェビナーによるオンライン配信
講　師：伊藤 眞知子氏（山形県男女共同参画センター館長）
　　『地方だからこそ、ダイバーシティ～男女共同参画週間に寄せて～』
対　象：教職員、学生、行政・企業の方、関心のある方
参加費：無料
申　込：別添チラシの申込みフォームよりお申し込みください。（申込締切は6月15日（水））

【全国ダイバーシティネットワークとは】

男女共同参画社会や多様な個性・能力が尊重されるインクルーシブな社会の実現のために、文部科学省と連携して、大学や研究機関、企業等における女性研究者の育成や研究環境・研究力の向上を目指す諸機関をつなぎ、国内外の取組動向や参考事例（グッドプラクティス）を収集・公開し、全国的な普及・展開を図る組織です。

お問い合わせ
ダイバーシティ推進室
TEL：023-623-4937　Fax:023-628-4185
メール： yu-y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和4年（2022年）6月2日

トチノキをテーマにした公開講座を開講

～「SDGsにも繋がるトチノキ林を背景にした江戸期以降の行沢集落における民俗生態誌」～

【本件のポイント】

- 東北地方や中部山岳地域において、トチノキという落葉広葉樹の実が縄文時代以降現代に至るまで如何に利用されてきたかを学ぶと共に、庄内地方でトチノキを守り利用してきた人々の生活文化を学びます。
- 鶴岡市行沢地区で現在も行われているトチノキの実（トチの実）の採取活動とその利用について解説し、江戸時代からSDGsを先取りした活動が行われてきたことを解明します。
- 講師は本学の八木浩司名誉教授と石垣和恵准教授。

【概要】

東北地方や中部山岳地域において、トチノキという樹種の実が縄文時代以降現代に至るまで如何に利用されてきたかを学ぶと共に、庄内地方でトチノキ林を守り利用してきた人々の生活文化を全2回の講義で解説します。
第1回「トチノキとトチノキの実の利用史」では、トチノキの生育する場所の地形的特徴や基層文化としてのトチノキの実の利用の歴史について解説します。第2回「旧朝日村における栃餅づくりとその背景」 では、鶴岡市行沢（なめさわ）地区背後の共有林についての研究を紹介すると共に、行沢地区で現在まで続くトチの実の採取活動とその利用について解説します。

【開催要項】

日　時 ／ 第１回：令和４年７月１日（金）　18:00～19:30
　　第２回：令和４年７月２日（土）　15:00～16:30
会　場 ／ 山形大学小白川キャンパス人文社会科学部１号館 103 教室
　　およびオンライン（Zoom ウェビナー）
参加費 ／ 500 円
対　象 ／ 一般・学生
定　員 ／ 対面は 30 名
講　師 ／ 八木浩司 名誉教授
　　石垣和恵 准教授（地域教育文化学部 主担当／専門 家庭科教育学）
プログラム ／ 第１回「トチノキとトチノキの実の利用史」
　　第２回「旧朝日村における栃餅づくりとその背景」
申し込み ／下記のホームページよりお申込みください（申込締切：6 月 26 日（日））
　　https://www.y-ex.jp/extension/post-29.html

講座の内容に関するお問い合わせ
山形大学　学術研究院　准教授 石垣和恵（家庭科教育学）
TEL 023-628-4356　メール ishigakika@e.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和4年（2022年）6月2日

新刊著書「新型コロナウイルスが人間社会へ残した禍根 渦中に見いだされたセレンディピティとコロナ世代の可塑性」発刊のお知らせ

【本件のポイント】

- 新型コロナウイルスによるパンデミックに関して，マイナス面に目が行きがちであるが，教育のDXなどが，促進されるなどメリットもあった．
- 「禍福は糾える縄の如し」といわれるように，本書は、危機を好機に転じる未来への一助をまとめた著書である．
- 本書の普及により，危機を好機に転じようとするポジティブ思考に向かうような示唆を人々に与える．特にコロナ世代に焦点を当てた．

【概要】

> 新型コロナウイルスによる世界的パンデミックが起きた。ワクチン接種を終えても再度感染者が増加する等で収束はまだ見えない。しかし、「禍福は糾える縄の如し」である。本書は、危機を好機に転じる未来への一助を示す。

・【背景】

新型コロナパンデミックの初期の頃には，自粛警察と呼ばれるような人々による言動が問題となったり，コロナデマやコロナに関するフェイクニュースや「蜚語」が拡散された．未知のウイルスへの恐怖に加え，同調圧力によるストレスも人々を困惑させた．

また，オンライン授業やリモートワークの普及により，ネット空間での生活時間が格段に増えた．メタバースやVR 空間，オンラインゲーム空間では，ジェンダーや人種，年齢，身体的な障害に関係なく，皆が楽しむことができ，バリアフリーを実現しやすい側面を持つ．メタバース内ではネカマが許容され，実際の容姿に関係なく理想の容姿をアバターに反映させることもでき，「太っている」とか「背が低い」などのコンプレックスから解放される．そのため，本来ユートピアが実現できるはずのネット空間で，誹謗中傷やフェイクニュースによりディストピア化している．

・【研究手法・研究成果】

質問紙調査などの結果を踏まえ，６名の著者がそれぞれ，コロナ世代の若者が，どう明るい未来を切り開いていくとよいか論じた．フェイクニュースの拡散については，著書で述べた内容を（参考）URL 内でも簡略的に紹介している．最終章では，６名の著者が集まり熟議をした内容を対話形式で収録した．

・【今後の展望】

本書の普及により，危機を好機に転じようとするポジティブ思考に向かうような示唆を人々に与える．

参考：YU-SDGs プロジェクト「サイバーサイコロジー」https://onl.la/fixdx7z

お問い合わせ
学術研究院　准教授　加納　寛子（情報教育）／学士課程基盤教育機構主担当
TEL　023-628-4689　　メール kanoh@cc.yamagata-u.ac.jp